

⑤ダントツ[㊦]粉剤DL (クロチアニジン 0.15%、登録番号：第20801号)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマク [㊦] ロヨコハ [㊦] イ カメムシ類	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し本田期は3回以内)
	イナゴ類	4kg/10a				
	イネト [㊦] ロイムシ フタヒ [㊦] コヤカ [㊦]	3kg/10a				

⑥ダントツ[㊦]箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%、登録番号：第20827号)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマク [㊦] ロヨコハ [㊦] イ イネミ [㊦] ヅウムシ イネト [㊦] ロイムシ ニカメイチュウ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内 (但し本田期は3回以内)

⑦ダントツ[㊦]H粉剤DL (クロチアニジン 0.50%、登録番号：第21242号)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類 ツマク [㊦] ロヨコハ [㊦] イ イナゴ類	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し本田期は3回以内)
	イネト [㊦] ロイムシ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類	3kg/10a	収穫7日前まで			4回以内 (但し種後は3回以内)
	カメムシ類	4kg/10a				

注) 下線は、適用拡大申請中。

⑧ダントツ[㊦]フロアブル (クロチアニジン 20.0%、登録番号：第21258号)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマク [㊦] ロヨコハ [㊦] イ カメムシ類	5000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し本田期は3回以内)
	ウンカ類 カメムシ類	90倍	3L/10a			空中散布	
	ウンカ類 カメムシ類	24倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる散布	

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

・ クロチアニジン

② 分析法の概要

クロチアニジンは、アセトン抽出し、CHEM ELUT™ カラム、Sep-Pak®アルミナ(N)及びシリカカートリッジで精製した後、高速液体クロマトグラフィー(UV 検出器)を用いて定量。

検出限界 0.002~0.04ppm。

(2) 作物残留試験結果

① 稲 (玄米)

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150 L/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量^{注1)}は 0.13, 0.10 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 1.0%1 キロ粒剤を計 3 回散布 (1 kg/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は<0.004, 0.026 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 0.15%粉剤 DL を計 3 回散布 (4 kg/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は 0.048, 0.023 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 0.5%粒剤を計 3 回散布 (4 kg/10a) したところ、散布後 14~22 日の最大残留量は 0.02, <0.01 ppm であった。

その他、稲 (玄米) を用いた作物残留試験で、総使用回数を超えて試験がなされているものについては、参考としていない。

② 稲 (稲わら)

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150 L/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は 0.11, 0.13 ppm であった。

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 1.0%1 キロ粒剤を計 3 回散布 (1 kg/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は 0.12, 0.18 ppm であった。

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 0.15%粉剤 DL を計 3 回散布 (4 kg/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は 0.12, 0.14 ppm であった。

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験(2 例)において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 0.5%粒剤を計 3 回散布 (4 kg/10a) したところ、散布後 14~22 日の最大残留量は 0.72, 0.26 ppm であった。

その他、稲 (稲わら) を用いた作物残留試験で、総使用回数を超えて試験がな

されているものについては、参考としていない。

③だいず（乾燥子実）

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6 kg/10a（播種時播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 200 L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, <0.01 ppmであった。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6 kg/10a（播種時播種溝処理土壌混和）、及び0.5%H粉剤DLを計3回散布（4 kg/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01^{注3)} ppmであった。

④ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6 kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150 L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.002, 0.016 ppmであった。

⑤かんしょ（塊根）

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を9 kg/10a、定植時植穴処理土壌混和として1回散布したところ、散布後104～116日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

⑥てんさい（根部）

16.0%水溶剤の100倍希釈液を計1回散布（1 L/10a）したところ、散布後160～175日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑦だいこん（根部）

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6 kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150, 200 L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.016, 0.014 ppmであった。

⑧だいこん（葉部）

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6 kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150, 200 L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.84, 2.26 ppmであった。

⑨だいこん（つまみ菜）

だいこん（つまみ菜）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を6 kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後10日の最大残留量は0.48 ppmであった。

⑩だいこん（間引き菜）

だいこん（間引き菜）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を6 kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）したところ、散布後22日の最大残留量は0.14 ppmであった。

⑪キャベツ（葉球）

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 300 L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.18, 0.16 ppmであった。

⑫レタス（茎葉）

0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 300 L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.58, 1.33 ppmであった。ただし、この試験は適用範囲内で行われていない。

⑬ねぎ（茎葉）

0.5%粒剤を6kg/10a、播種前播種溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.05, 0.14 ppmであった。また、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計4回散布（150, 200 L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.09, 0.13 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑭トマト

施設栽培のトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.23, 0.12 ppmであった。

⑮ピーマン（果実）

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150～200, 200 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.21, 1.02 ppmであった。

⑯なす

施設栽培のなす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（162.5～200, 200 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.29, 0.38 ppmであった。

⑰きゅうり

施設栽培のきゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200, 300 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.70, 0.22 ppmであった。

⑱メロン

施設栽培のメロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3

回散布 (250, 300 L/10a) したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.038, 0.012 ppm であった。

⑱すいか

施設栽培のすいか (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 2 g/株 (定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (250, 300 L/10a) したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.022, 0.011 ppm であった。

⑳温州みかん(果肉)

施設・無袋栽培の温州みかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.25, 0.086 ppm であった。

㉑温州みかん(果皮)

施設・無袋栽培の温州みかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 3.24, 1.09 ppm であった。

㉒夏みかん(果肉)

夏みかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.023, 0.29 ppm であった。

㉓夏みかん(果皮)

夏みかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.36, 2.18 ppm であった。

㉔夏みかん(果実：果肉、果皮の重量比を用いて算出)

夏みかん (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.12, 0.73 ppm であった。

㉕すだち(果実)

すだち (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.30 ppm であった。

㉖かぼす(果実)

すだち (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.20 ppm であった。

㉗りんご

無袋栽培のりんご (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500 L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.16, 0.042 ppm であった。

㉘なし

無袋栽培のなし（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 500 L/10a)したところ、散布後13～14日の最大残留量は0.12, 0.12^(注2) ppmであった。

⑳もも(果肉)

無袋栽培のもも（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400 L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.12, 0.084 ppmであった。

㉑もも(果皮)

無袋栽培のもも（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400 L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.00, 2.04 ppmであった。

㉒うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500～800, 700 L/10a)したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.97 ppmであった。(もう1例については、適用範囲内で試験が行われていないため、参考としていない。)

㉓おうとう(果実)

施設栽培のおうとう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(500, 625 L/10a)したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.08, 1.96 ppmであった。

㉔ぶどう(果実)

施設・無袋栽培のぶどう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300 L/10a)したところ、散布後14～56日の最大残留量は0.51(大粒種), 1.43(小粒種) ppmであった。

㉕かき(果実)

かき（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400 L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.11, 0.14 ppmであった。

㉖茶(荒茶)

茶（荒茶）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400 L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は37.6, 2.42, 9.92 ppmであった。

㉗茶(浸出液)

茶（浸出液）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400 L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は36.4, 2.27, 8.70 ppmであった。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期